



全国学力・学習状況調査から

今年度も、毎年6年生に実施されている「全国学力・学習状況調査」の結果が届きましたので、お知らせします。

本校の実態として、これまでの取組みによって力がついてきたところと、課題となっているところについて示しています。また、結果から、より一層頑張らなければならない点については、改めて教科等の学習の中で重点的に取り上げ、県教委から示されている強化問題などへ取り組んでいく予定です。また、5年生以下の学年においても、関連するところをピックアップし、つながりを意識して学習を進めていきたいと考えています。

さらに、わかったつもりだけれど、次にできるかどうか自信がないという思いを抱くことのないよう、類似の問題などに取り組んだり、繰り返し行ったりするなど、いつでもできるという自信をもつことができるような活動（パワーアップタイムの実施）も、継続して行っていきます。

1 各教科から見えてきたこと

< 成果と課題 >

【 国 語 】

国語では、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題」や「目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」で、全国平均を上回りました。

一方で、「相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるような話の構成を考えることができるかどうかをみる問題」について苦手と感じている児童が多いことが分かりました。

今後は、国語を中心に様々な教科の学習を通して理由や事例を挙げながら、考えをまとめたり伝えたりすることができるように、相手の興味・関心を引き出す書き出し方や、納得感のあるまとめ方などについて、文章を推敲したり自分の思いが伝わる語彙を増やしたり、共感を促す文章か再考したりするなど、相手に伝わる表現かどうかについて考えさせたりして指導していきます。

【 算 数 】

算数では、「B図形」や「C変化と関係」の領域のほとんどの問題で全国平均を上回りました。特に「立方体の体積の求め方の理解についてみる問題」や「数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題」では、全国平均を10ポイント以上上回りました。

一方で、「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件をもとに、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」で全国平均を大きく下回りました。

一人一人の解答を見ると、直方体の三つの辺のそれぞれの長さを正しく捉えられたにも関わらず、周りの長さを求めるはずが体積を求める問題だと誤って認識し、乗法の式にしてしまった児童が33人中7人いました（約21％）。また、題意を理解できず、正しく立式できなかった児童が33人中12人いました（約36％）。

今後は、子供たちそれぞれが問題文の意味を正しく理解し、問われていることに対して適切に正答を導き出すために、言語活動の中で、子供たち同士で対話を通して練り合う機会を確保し、板書の視覚的なアプローチも使用しながら数学的な見方・考え方を獲得できるようにしていきます。

2 質問紙調査から見てきたこと

「人が困っているときは進んで助けていますか」（肯定的な解答 100％）、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（肯定的な解答 96.9％）で全国平均を上回りました。また、「朝食摂取率」や「起床・就寝時刻」などにおいても、全国平均を上回っていることから、家庭において良好な生活習慣が築かれていると言えます。

一方で、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」（1時間以上が21.9％）について、全国平均を大きく下回りました。（全国39.0％）

学校での学習の充実はもちろん、家庭でも自分から学びに向かう子供たちにしていくために家庭と協力し、個別最適な学びに力を入れたり、学びがいのある授業になるよう工夫したりすることによって、「自ら問いを立て課題を解決する力」や「学びがいを感じ、自ら学びに向かう姿勢」を育てていきます。

